

- 本書において、不具合の原因及び処置方法については、その主な内容を抜粋し掲載しております。
- 不具合の症状は同じでも、ローダ及びトラクタの機種により、原因や処置方法が異なる場合がありますので十分注意の上、ご不明な点がございましたら本製品をお買い求めになりました「販売店」「JA」まで、ローダ本体に表示されている〈ローダ型式〉〈本体分類〉〈製造番号〉及び〈トラクタの型式〉を確認の上ご相談下さい。

	主な症状	原因と処置
ローダが動かない	ローダ及びトラクタの補助バルブ 3 P 作動しない	30 ページ参照
	ローダは作動しないがトラクタの 補助バルブ、3 P は作動する	30 ページ参照
ローダは動く	ローダは作動するがトラクタの 補助バルブ、3 P は作動しない	30 ページ参照
ローダの動きがおかしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・操作ラベル通りに作動しない</li> <li>・アームが動かない</li> <li>・作動時異音を発する</li> <li>・作動速度が異常に遅い</li> <li>・力がでない</li> <li>・シリンダが自然に伸びる、縮む</li> </ul>	31 ページ参照
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カプラの接続ができない</li> <li>・シリンダから油漏れがある</li> <li>・ホース、配管の継手部から油漏れがある</li> <li>・ローダを作動させると「ギー」などの金属音がする</li> </ul>	31 ページ参照
ベールグラブなどの油圧式アタッチの動きがおかしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベールハンドが動かない</li> <li>・グレーダがアングルしない</li> </ul>	32 ページ参照

症 状	原 因	処 置
ローダ及びトラクタの補助バルブ、3Pも作動しない。	トラクタとローダ操作バルブ間の配管に間違いがある。 注：トラクタ油圧ポンプ等の破損原因となります。	正しく配管してください。 (組立要領図参照)
	作動油が不足している。	作動油を適量まで追加してください。
	オイルフィルタの目づまりがある。	清掃又は交換してください。
	メインリリーフバルブの不良、目づまりがある。	内部清掃をし、圧力計で確認しながら正しい圧力に調整してください。
	ローダの操作バルブ内に漏れがある。	該当部品を交換してください。
	ポンプが故障している。	ポンプの修理又は交換をしてください。
	ロードセンシング機構のトラクタでは、LS回路につまり、漏れがある。	清掃、又は修理してください。
ローダは作動しないがトラクタの補助バルブ、3Pは作動する。	ローダのストップバルブが「閉」になっている。	ストップバルブを「開」にしてください。
	トラクタとローダ操作バルブ間のP1(赤)とP2(黄)の油圧ホース接続が逆になっている。 注：トラクタ油圧ポンプ等の破損原因となります。	正しく接続してください。 (組立要領図参照)
	ローダの操作バルブ内に漏れがある。	該当部品を交換してください。
	ロードセンシング機構のトラクタでは、LS回路につまり、漏れがある。	清掃、又は修理してください。
ローダは作動するがトラクタの補助バルブ、3Pが作動しない。	トラクタとローダ操作バルブ間のP2(黄)とT(緑)の油圧ホース接続が逆になっている。	正しく接続してください。 (組立要領図参照)
	ロードセンシング機構のトラクタでは、LS回路につまり、漏れがある。	清掃、又は修理してください。
	トラクタ3Pの落下速度調整グリップが閉まっている。	開けてください。

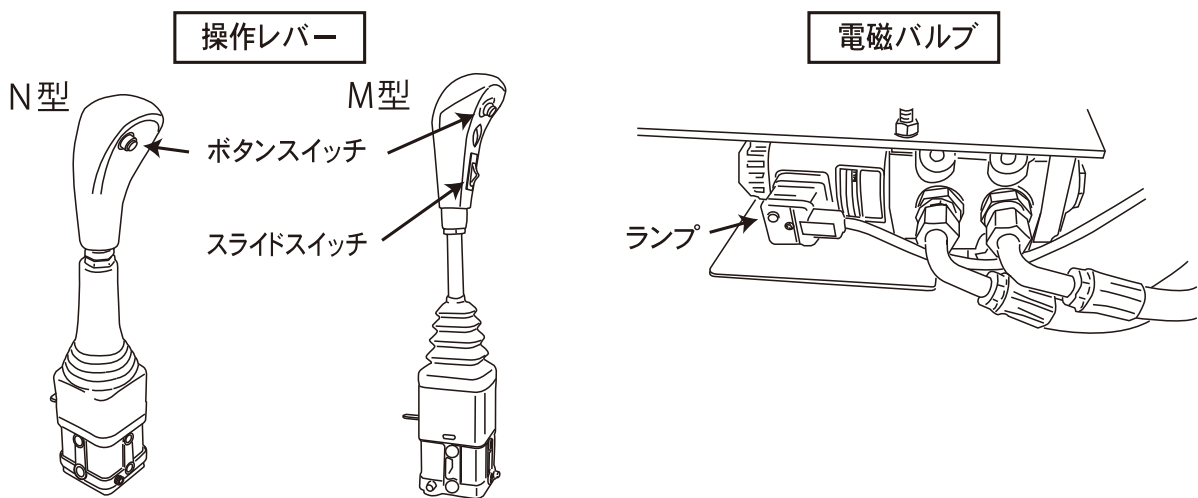
症 状		原 因	処 置
ローダの作動がおかしい	操作ラベル通りに作動しない	ローダ操作バルブとシリンダ間のホース、カプラの接続が間違っている。 注：ローダの破損原因となります。	正しく配管してください。 (組立要領図参照)
	アームが動かない	ローダのストップバルブが「閉」になっている。	ストップバルブを「開」にしてください。
	作動時異音を発する	ローダ操作バルブとシリンダ間のカプラ接続不良又は損傷	正しく接続する又は交換してください。
	作動速度が異常に遅い	シリンダ内にエアーが入っている。	シリンダを往復作動させてエアーを抜いてください。
	力がでない	作動油が不足している。	作動油を適量まで追加してください。
		寒さのため作動油の粘度が高くなっている。	暖気運転をして油温を上げてください。
		オイルフィルタの目づまりがある。	清掃又は交換してください。
		メインリリーフバルブの不良、目づまりがある。	内部清掃をし、圧力計で確認しながら正しい圧力に調整してください。
		シリンダ内のオイルシール、ピストンの損傷又は劣化。	該当部品を交換してください。
		ロードセンシング機構のトラクタでは、LS回路につきまり、漏れがある。	清掃、又は修理してください。
	シリンダが自然に伸びる、縮む	シリンダ内のオイルシール、ピストンの損傷又は劣化。	該当部品を交換してください。
その他	カプラの接続ができない	油圧回路内に残圧がかかっている	残圧を抜いてください。
	シリンダから油漏れがある	オイルシール損傷又は劣化。	該当部品を交換してください。
	ホース、配管の継手部から油漏れがある	継手部が締まっていない。 ネジ部が損傷している。 シールが完全でない。	完全に締めて下さい。 損傷時は交換してください。 シールテープを巻き直す リングを交換するなどしてください。
	ローダを作動させると「ギー」などの金属音がする	ピン部にグリスが入っていない。	グリスアップしてください。

主な症状	原因	処置
ベールグラブのハンドだけ または、油圧式グレーダが アングルのみ作動しない。	第三系統への接続ホースカプラ部の 接続不良及びカプラの故障	正しく接続する 部品交換する
	パイロットチェック弁のゴミ かみ、または不良	洗浄修理、または交換

以下は、電磁バルブの電気回路上に原因が考えられる場合を掲載しています。  
原因が判明したら修理、部品交換など適切な処理を行ってください。

【対応】

操作レバーのボタンスイッチを押したときに 電磁バルブ側コネクタのランプ (発光ダイオード) が点灯しするかを確認してください。



●点灯しない場合 (P33 図 EV-TS01 参照)

接触不良が考えられます。 次の項目の点検を行ってください。

- ①電磁バルブ用ハーネス両端のコネクタがしっかりとハマっているか確認する。
- ②電源ハーネスの管ヒューズ (10A) が切れていないか確認する。
- ③コネクタ (メス) 内の接触不良がないか確認する。
- ④電磁バルブ用ハーネス両端のコネクタ内の接触不良がないか確認する。
- ⑤操作レバーのノブを外しノブ内スイッチへの接触不良がないか確認してください。
- ⑥電源ハーネス内で断線がないか確認する (テスターで通電を確認)
- ⑦ノブ~コネクタ (メス) 間で断線がないか確認する (テスターで通電を確認)
- ⑧バルブ用ハーネス内で断線がないか確認する (テスターで通電を確認)

●点灯する場合 (P33 図 EV-TS01 参照)

電磁バルブの不具合が考えられます。 次の項目の点検を行ってください。

- ①電磁バルブ切り替えスプールの異常等 (切り替えがうまくできない)